

皆様お久しぶりでございます。今日はお話させていただく機会を頂きありがとうございます。忙しくてスライドをかき集めてそのまま持ってきました。大量ですので飛ばしながら話を進めさせていただきます。5年ほど前に総長の職が決まったとき、「21世紀前半に京都大学はどのように揺れるか」という題で講演をさせて頂きました。法人化をひかえている時でしたので、きっと大学法人化の問題をしゃべるに違いないと学生の自治会、職員組合の人々などたくさんの方々が聞きにきてくれましたが、私の話は実際に京都大学の周辺でどれくらい揺れる地震を予測しているかといった中身でした。今回は「国立大学法人化の前後に」という題でやるというメールを頂いたりなどしてましたが、今朝急に、やはり法人化の前後に起こった地震の話をしなければならなかった次第です。

2003年9月26日には釧路沖地震が起こりました。総長予備選挙のときに地震があって新聞記者がいっぱい来ましたが、次の日の本選挙後に本部の広報係から記者会見をしなければいけないということで、選挙のことは忘れていて「地震の資料は整っている」と返事をすると、「地震の話ではない、違う会見である」といわれて大笑いをしました。それが平成15年十勝沖地震です。これが地震学者の予測どおり発生した地震ですが、ただ揺れ方がちょっと意外であったなどと話しました。それ以後いくつかの大きな地震が起こりましたがとくに私が関係しているのが中越沖地震で、被害を受けた新潟県柏崎刈羽原発をどのように立ち上げるかが大きな問題となっています。

世界の地震活動ですがインドネシアで超巨大地震が起こりましてその余波が続いている最中ですが、M7クラスの地震が多くなって1年5回を超えました。そして12月26日に超巨大地震が起こり、また非常にたくさんのM7クラスの地震が連発しており、プレート境界に沿って連鎖反動的な活動が起こっています。今日はこのような地震の話をするのではなくて、法人化に伴う大学のことをいろいろお話させていただきます。われわれは変動帯に住んでいることを実感しながら、本部でかき集めてきたスライドをご覧いただきながら変動帯に位置する京都大学とはどういう大学かをあらためてお話したいと思います。学生、教員、職員の皆さんは大学全体のことを案外ご存知ありません。

京大は基礎的な研究、最先端の研究、基礎研究を行うといわれておりますが、これが法人化することにより競争化社会へ繰込まれました。東大との競争であります。伊藤先生、広中先生、宮本クレータで知られる宮本先生のようなたくさんピークのある大学を私は目指すといっております。マイクロソフトの地図には南極大陸が書いてない、ユネスコの地図にもない。京大の学生は5大陸ではなく6大陸で学習をしろ、とっております。6大陸は南極観測から始まりました。海面の変化が問題になっていますが氷河期に海面は今より120m低く、白亜紀は現在に比べれば20高温でありました。最近言われている「温暖化は心配しないでよい、地球の心配は無用である」といつもっております。

京都盆地は活断層で出来ました。堆積層が厚く豊富な地下水が京都の文化を育んできました。恵まれています。1300年の歴史があり、秦氏が松尾神社を建立したのは701年です。1300年の歴史は地下水からみた歴史と言えます。京都の文化は変動帯が育んだ文化、「変動帯の文化」と言えます。M7.5以上の地震が京都周辺で多く発生しています。北欧のストックホルムは岩盤の上にあり、そこに街をつくるためにダイナマイトが必要で、それでノーベル賞が生まれました。同

じようにシドニーには観光地ロックがあります。京都には堆積層があって、大地震が起こります。京都の扇状地を散歩し、思索を重ねてノーベル賞を貰っています。これが「変動帯の文化」です。断層変位は地震発生の歴史を示し、将来の活動予測につながります。京大の足元を通る花折断層の調査は、30年以内に震度6弱の地震発生確率を明らかにしています。したがって京大も耐震工事を進めなければなりません。全国予算の1割を貰って工事をしていますが、内心では内装をきれいにすることも目的でした。この工事で地球惑星関係が1カ所に集まることは画期的なことです。昔、地質学鉱物学教室の同窓会で挨拶をすることになり、「今は緊密な連携が必要であるのに地球物理者は未来に目を向けて予測している、地質学者は過去を振り返っている」と言って怒られたことを思い出します。時代の変化を感じます。

茶の湯の文化、菓子、ロームの半導体などは京都の「地下水の文化」と言えます。文化財の多い京都の博物館、美術館に学生は学生証を提示すれば無料で入館できるようにしました。留学生も入れます。

京大の三つのキャンパスには花折断層、西山断層、黄檗断層などがあります。大学の中身について紹介するときには氷山の絵を使います。世間に見えているところには教育研究、医療などがあり、これを支えるいろんなものがあって、例えば同窓会などもあってバランスが崩れると沈んだり浮いたりします。大学の規模は職員が5000人、臨時職員、学生22500人あわせて3万人で構成されています。大学の歴史を語るときには「エポックがいくつかある」と言います。1897年の京都帝国大学設置以来、大正時代に関東大震災のころにいろいろ世の中の動きもありましたが、学生数が急に増えた時期があります。太平洋戦争中1943年には学徒出陣がありました。終戦直後に帝国大学が解消され新制大学が発足し、最近になって2004年に国立大学法人が京都大学を設置するという大きな動きがありました。法人が大学を設置する形態ですが、役員が法人にいます。したがって私はお金を伴う契約のときを除き、京大では国立大学法人を一切使わない方針でした。京大では福井地震、南海大地震などのときにも学生数が増えています。

学生の様子をご覧頂くと、例えば大学祭では看板をずらっと並べていますが、きれいな看板でこれも京大の良いところだと思います。花折断層を見学する会なども毎年行って活断層の話をしました。学生数の三分の一は工学部の学生ですが、これは日本だけの現象です。大学院の学生数も工学研究科が38%です。大学評価は大学人の手でやらなければならないというのが私の主張するところで、評価する方の座長をしています。法人化に際して国会の付帯決議があるにもかかわらず、政府に裏切られたことがたくさんありました。いきなり授業料の値上げが来ました。教育でもいろいろ申し上げてきました。私立大の役割は非常に大きい国ですから、とくに私立大学との協力関係を進めてきました。いろんな面での学生の支援です。大学院へ進学できるように、また学生の課外活動が活発化するように取り組んできました。瀬戸臨海実験所も改築しました。プライベートビーチもありますから、先生方それに同窓会の皆様もどうぞ参加して下さい。11月祭、7大学の体育大会など他大学との共同活動にも取り組んできました。オリンピック・オークは残念ながら虫が入って枯れました。日本列島を縦断した台風の被害額はフィールドワークを得意とする京大の姿をよく表しています。阪大の被害はゼロでしたが、京大はたくさんの復旧予算を頂きました。高知県の横波半島でも研究が進められています。飛騨天文台の冷却塔もやっと新しくなりました。産学連携ですが、いろんな連携が生まれました。島津製作所と京大は以前からずっと続けてきましたし、キャノンからも言われています。新しい試みとして発足したのは川端通り

の稲盛財団記念館です。資料館の研究資源アーカイブは地球物理の皆様にも大いに関係がある筈です。京都市と連携して野生動物保全に関する教育及び研究協定を結びましたので、楽しい動物園になる筈です。少子高齢化が進んでいるのはゴリラの社会で、見世物小屋にしておくのはよくないという訳です。

残した仕事としては停年制の問題が一番大きく残っています。環境と安全については安全の方にはいろいろ課題が残っています。環境については京都大学の炭酸ガス排出量が全国の0.01%で、これをいかに減らすかが大きな問題です。大学として発展すれば排出量は増加しますからこれをどうするか、です。

広報活動もいろいろやりました。環境問題に関する話題として、入学生にバッグを作って渡し、その使われ方をフォローするためにレアーもの、オークションなどネットを調べてみました。バッグを洗濯しているか?などにも注意してみました。これらが大きな話題になります。普段京都大学に関心のない人から一挙に倍くらいアクセスが増えます。京大に目を向けてもらうために総長カレーを作り、これはかなり話題になりました。因みにライスカレーを始めて食べた総長は第6代の山川健次郎総長でした。

大学間の連携もいろいろやってきました。国連大学は学生のいない一番規模の大きい大学ですが、学際的研究など協力協定を結びました。国際連携もいろいろ取り組みました。アジアとの連携を進めましたが、これからは東アジアとの交流が重要です。A I Uの議長も努めました。このためヨーロッパ方面が少し手薄でありました。企業との連携は現総長が大いにやって下さるはずで、現役の先生方にはご協力頂かなければなりません、80%以上の英語授業を目指すことを決めました。サウジアラビアの大学の顧問は現在もしています。

21世紀の京都大学のイメージをどうもっているかですが、世界の同質化が進む中で京大は自主性を保っているかに思いをめぐらしつつ、地球社会の調和ある共存を念頭において大量の書類をわたして引継ぎを終わりました。

日本 GEOPARK 委員会の委員長をしています。日本の GEOPARK 運動を進めようと、Global GEOPARK network を支援し、わが国でも7個所の認定状を送りました。地元の人たち、とくに子供たちと一緒に地球科学に親しみをもってもらうことが私たちの願いです。ただ東北の方があまり進んでいません。皆様も機会があれば宣伝をお願いします。名誉教授も経済や環境の問題を考えると地球のことを忘れてはいけませんし、地球の仕組みや歴史を深く理解することは必要です。現在私がいる場所は京阪奈学研都市にある国際高等研究所です。4月からはここの所長を勤めさせていただくことになりました。宿泊施設、研究室もあります。講堂もあり300人くらいは入れます。のんびりと研究できますので大いに利用していただきたいと願っています。以上、4年間の報告のつもりでお話いたしました。

どうも有難うございました。